

ブルーベリーの温暖地での高品質化に向けた栽培および育種研究

【研究概要】

ブルーベリーでは労力のかかる個別収穫が必要であること、暑さ・乾燥に強く果実品質の優れる品種がないことが課題である。ブルーベリーの交雑育種研究ではこれまでに、種間雑種の一部が単為結果性かつ房取り適性を有することを明らかにし、耐暑性・耐乾性の優れる日本在来野生種とブルーベリーとの節間雑種作出に成功した。そこで本研究では第一に、温暖地での高品質・省力栽培を可能とする新品種を育成する。第二に、温暖地適応性や房取り適性を有する雑種の効率的な作出・評価法を確立する。その中で今年度は下記の2つの成果が得られた。

(1) 新品種に適した栽培技術の確立

新品種の苗をコンテナに定植し、試験樹の育成を行った。果実の高品質化技術の確立を目指し、摘蕾・摘果の予備試験を行った。また前課題で最終選抜したうちの1系統について現地栽培調査を開始した。

(2) 新系統の作出

育種素材の節間雑種等について、果実の成分および抗酸化能を評価した。雑種集団について4年生時のデータを解析し、大粒・良食味の個体作出のために有望な交配親および交配組合せについての知見を得た。また前課題から選抜中の有望系統について特性調査を行い、選抜を進めた。